

ナバリスト 28

徳地 和子 さん

市陸上競技協会 理事長



1979年「アジア陸上競技選手権大会」走り幅跳びでの銅メダル

とくぢ・かずこ ●山口県出身。走り幅跳びで、国体優勝（1979年）、アジア陸上競技選手権大会3位（1979年）、世界マスターズ陸上競技選手権3位（1991年）など活躍。小中学校の教師として陸上部などで指導し、教え子には三重県の小・中学校の記録保持者も。現在もクラブチームなどで指導にあたる。選手としても現役。



学生時代から多くの大会で記録を残す



現在は小学生陸上教室や小中対象クラブチーム、英心高校で熱心に指導



今このときを、精一杯。「一日一生」

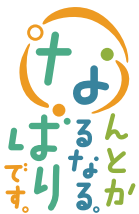
その度、「決して諦めない」という心で立ち上がってきました。子どもたちにも「諦めたらあかん」「継続は力なり」と伝えていきます。陸上を通じ、感謝や自立心、謙虚さ、奉仕の心など人間力を育んでほしいですね。これからも変わらず一日一日を大切に、名張の子どもたちに教えられることが、今の私の夢です。

もちろん、平坦な道ばかりではありませんでした。大学3年生の頃、ケガで大会に出場できなくなりました。利き足を変えて必死で練習し、4年生で再び咲きました。社会人になっても、大きな病気は計7回。車いす生活を余儀なくされたこともあります。

練習が好きでなかった私ですが、日本代表になった時は人の3倍努力しました。勝つと元教師の父が大好きなお酒で祝杯をあげて、地域の人たちと一緒にすごく喜んでくれたんです。「誰かのために」という想いは、人を変え、感動を与える力があります。北中学校で顧問をしていた時は、生徒たちが「先生の地元（山口県）で開催される全国中学校駅伝競走大会へ連れていくぞ」と言い、有言実行してくれたことは一生の宝物です。今でも教えている子どもたちが活躍すると、ドキドキワクワクします。

私のモットーは「一日一生」。今日を最後の一日と思い、悔いなく生きることです。茶道・華道をたしなんだり、書道で日展入選を果たしたり、カウンセリングの免許を取ったりと、興味のあることは何でも挑戦してきました。結局、「これも競技や指導のヒントになるかも」と、常に陸上のことが頭にあるんですけどね。

編集後記



名張のひと・活動

表紙写真はテイク3でイメージ通りに！生き生きした表情はカラー紙面で映えますね。カラー化後は、紙質変更など工夫を重ね、モノクロ時と比べて年間3百万円以上の印刷経費を削減しています（たか）
中学時代、徳地先生に陸上を教えてもらっていました。先生に褒めてもらえた時は嬉しくて、今でもいい思い出です。あの頃は運動が大好きだったのにな…人って変わるものですね（ぐま）
竜口城址・城山城址への道をイベント参加者さんと一緒に歩きました。「急斜面も若いから軽々やねえ」と言っていたのですが、翌日しっかり筋肉痛に。なんだか達成感のある痛みでした（はな）
私も忍者衣装を着て、トレッキングイベントに参加。たくさん写真を撮ってもらった中で、「これは何に使えるんだ？」と思ったポーズもありましたが、P23に使われています（おふじ）

